氷見交友会館だより

2021（令和3）年　10 月号　電話/FAX　0897-57-7248

「手　話」

5年ほど前でしょうか、と皆さんに聞いてもしかたないのですが、そのくらいかもう少し前だったか、西条市社会福祉協議会が開く手話奉仕員養成講座（入門編）を受講しました。当時勤務していた学校では、全校で手話歌を覚えたり、手話クラブがあったり、校長訓話や全校集会、入学式や卒業式などの行事ごとに手話通訳（手話を身に付けた先生によるものです。）があったりと、手話が身近にありました。それに手話の得意な先生から勧められたことが後押しとなり、受講することにしました。

養成講座でいただいた「手話奉仕員養成テキスト」が、我が家の書庫（書庫がどこにあるの？しょこにあるよ、の書庫です。）から出てきました。そのテキストの表紙が再び、私に「手話を学ぼう、手話で話そう」と誘ってくれました。その当時に覚えた手話（決してたくさんではありません。）は、記憶の深い深い淵の中に沈んでいましたが、それをめくると、記憶が少しずつ浮かんできました。まるで、発酵中の酒樽に浮かぶ泡のように、と言えばきっとその様子が想像できるでしょう。せっかく浮かんできた記憶も、そのうち酒樽の泡のようにはじけて消えていくので、この際きちんと覚えることにしました。

そこで、講座のテキストを記憶の基地にし、家にいる間少しの時間でも、ページをめくって繰り返し覚えているところです。それに加えて、ユーチューブを使って学んでいます。これは便利です。「手話」で検索すると、多くの人が、手話に関する動画を上げていて、学習に大変役立ちます。動画を上げている理由は、「手話を多くの人に理解してもらいたい、つかってもらいたい。言語の一つと考えてもらいたい。」と私は思います。いや違う、という人がいたら、連絡してください。「ごめんなさい。」と謝りますから。

私たちが持つ情報を共有し、あるいは交換することで、より深く理解し合ったり、誤解を解くことが出来たりして、価値を高めることにつながります。その道具として私たちは、言葉をつかいますが、感情については、顔の表情や声の調子といった表現によって、直線的に伝わっていくと、私は、思います。手話の会話でも、口形だけでなく、顔の表情が重要になってきます。（だんだん専門家のような言い回しになっていますが、大きな心でお許しください。）「うれしい」「楽しい」という手話は、両手を胸の前で互い違いに上下に動かす動作と一緒に、顔で「うれしい」「楽しい」という様子を表わします。（講座で教えてもらったことです。覚えていたことを自慢したいわけではありません。）当然ながら、涙が頬を伝って流れるしぐさをする手話にも、悲しそうな顔の表情を付けて「悲しい」を表わします。尋ねる手話をするときは、首を横に傾けて、「わからない」意を表現します。（これも講座で教えてもらいました。ちゃんと覚えています。）

このように、手話で伝えたい情報を発信する際は、視覚情報を増やし、不足する情報を補います。これは、自分の思いをきちんと伝えたいという思いと、相手を思いはかる文化があることを示しています。この手話プラス表情の手法は、日頃から音声の会話にも、「プラス　表情」を取り入れたいものです。そうすれば、手話の習得に生かせるでしょうし、自分の思いをより正確に伝えることができます。一石二鳥です。

ところで、自分がどういう表情をしているか、ということを私はほとんど自覚していませんでした。話がほんの少しだけ向きを変えますが、自分の表情について、続けます。

ずいぶん以前のことです。勤務校に同年齢の同僚、男3人が、南予で2泊3日のキャンプを挙行しました。その帰りのことです。3人の財布は、紙幣がすべて姿を消し、高価とは言い難い硬貨がにぎやかにガチャガチャと音を立ておりました。3人の話合いで、家まで空腹を我慢することにしました。しかし、山中にうどん屋を見付けた1人が、「あそこに寄ろう。」と言い、他の了解を得ず車を停めました。2人は、金が足りるのだろうか心配していたのですが、1人は「こういったところのうどん屋は、値段が安く、しかも味がよいに決まっているのだ。しかも、高齢のおばあさんが経営しているとわしはにらんだ。そのおばあさんのためにも入るべきなのだ。」と一方的に言うのでした。その話を聞いた2人は、頭の中に、店の中でおばあさんが笑顔でおいしいうどんを出してくれる状況を思い浮かべてしまい、空腹に屈服した3人が、店の引き戸を開けて入りました。

入ったとたん、我々は、そろって後ずさりをしようとしました。店のカウンター向こうには、「山本小鉄」を連想させる屈強な男性が、私たちを無言で迎えたのです。どう見ても、おばあさんではありません。笑顔もありません。3人は浮かぶ言葉もなく、丸い緑色のいすに座り、貼ってあるメニューから「かけうどん」を選びました。「かけうどん3つ、いや、3人が3つ。いや、3人で3つ。」と、うどん屋の怒ったような顔におびえながら小さな声で言いました。伝わったのだろうか、返事がない。確認もない。ひょっとして、3人に、それぞれ3つずつうどんが出てきたらどうしようと、さらに恐怖が増幅します。うどん屋の主人は、怒ったような不機嫌な顔をしたまま、黙ってうどんを湯がいています。カウンターの3人は、いつもはよくしゃべるのに、このときは、誰もしゃべりません。ずん胴鍋の湯立つ音が陰気に響く中、うどん屋の主人が、湯切りざるをさっと振りました。そこから飛んできた一滴が私のおでこに当り、思わず出た「あっつ。」の声（ラの音だったと思います。）が、うどん屋の主人に響き、「わっはっはっ。」と大笑いをしました。その笑い声と笑い顔が、先ほどまでの恐ろしいイメージを突き破るものでしたので、我々3人も大笑いしました。ひとしきり笑い終わったあと、うどん屋の主人がこう言いました。「あんたら3人が入って来たときの形相が、尋常じゃないくらい怖かった。」それを聞いて、私も「それはこっちも同じですよ。」と返しました。4人は、まるで5月の石鎚山の雪のようにすっかり打ち解け、うどんを食べ終わった後も、たわいもない話をして笑っていました。店の主人の形相は、まさに、私の顔が鏡のように映っていたのです。「この人は怖い人だと思うとき、相手も同じように思っている。」ということをしみじみと感じました。表情で人を判断する前に、自分の表情はどうなのか、もっと言えば、自分の立ち振る舞いは、人の立場を考えたものになっているのか、そう考えさせたうどん屋の出来事でした。

ちょっとだけ、言いたいことと締めくくりの文がずれているような気がしますが、気のせいでしょう。以上、曽我部　研二でした。（館長）

『ふれあい祭り』思い出フォト

～今までのふれあい祭りをふり返ってみました～

10 月 10 日（日）に、『第 26 回氷見交友会館ふれあい祭り』を開催（かいさい）する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、残念ながら中止となってしまいました。昨年に引き続き２年連続の中止となり、楽しみにして下さっていた皆さまには、大変申し訳なく思っております。毎年、当たり前にできていたことができなくなるもどかしさ、やるせなさは、様々（さまざま）な場面で誰もが経験されたのではないでしょうか。今回は、写真で以前のふれあい祭りの様子を思い出していただき、来年度こそは、皆さんと笑い合いふれ合えるふれあい祭りが開催（かいさい）できることを、心から願っております。（写真は令和元年以前のものです。）

力強い道前太鼓

大福引でお米ゲット！

甘酒・コーヒーをどうぞ

作品展示・学習発表

くじ引きやお宝市

毎年たくさんの笑顔があふれていました。来年はこの笑顔に会えますように･･･

10月の行事予定

日	月	火	水	木	金	土
					1 石鎚クラブ 13:30～15:00	2 休館日
3 休館日	4 生き生き健康体操 13:00～ 歌謡教室 13:30～15:30 楽書教室 13:00～16:00	5	6 絵手紙教室 13:30～15:30	7	8 書道教室 9:30～11:30 石鎚クラブ 13:30～15:00 華道教室 14:00～16:00	9 休館日
10 休館日 人権を考える日 老友会	11	12 健康管理巡回相談 10:00～12:00 裂織サークル 13:00～16:00	13 ひまわり会 10:00～11:00	14 茶道教室 13:30～15:30	15 石鎚クラブ 13:30～15:00	16 休館日
17 休館日	18 歌謡教室 13:00～15:00 楽書教室 13:00～16:00	19	20 絵手紙教室 13:30～15:30	21	22 書道教室 9:30～11:30 石鎚クラブ 13:30～15:00 華道教室 14:00～16:00	23 休館日
24 休館日	25	26 裂織サークル 13:00～16:00	27 ひまわり会 10:00～11:00	28 茶道教室 13:30～15:30	29 石鎚クラブ 13:30～15:00	30 休館日
31 休館日	おしらせ　9/13（月）から会館の利用を再開しています。ただし、9/26（日）までは、利用を西条市民に限定しています。（9/9 現在。変更の可能性あり。）					

※来館の際は、事前の検温、マスク着用と入り口での消毒をお願いしております。また、発熱、発熱がなくても体調が悪い方、緊急事態宣言地域等（まん延防止等重点措置地域を含む）からの帰県後２週間を経過していない方は、入館をご遠慮下さい。ご協力をよろしくお願いします。

感染症拡大防止対策により臨時休館となる場合、その間予定していた行事や講座ができなくなります。

西条市氷見交友会館

住　　所：〒793-0072　西条市氷見乙 1722 番地

TEL･FAX：**0897－57－7248**

Ｅメール：himikoyukaikan@saijo-city.jp

開館時間：**9:00～17:00（月～金）**

※ 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始は閉館しています。

氷見交友会館では、人権、福祉、健康、職業、生活、教育等の各種相談事業を随時行っています。電話、訪問での相談にも対応いたします。

お気軽にご相談ください